

慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1991 (春・夏号)



vol.5

6 期生～10期生 座談会

志木会の活性化を図ることを目的として、幾つかの期に分けて、それぞれの志木高校在学時の思い出を語る“座談会”を実施致しました。

今回は6期生から10期生による座談会の模様です。

参加者：乙部勝、内藤久和雄(以上6期生)、菅原武、出口皚二郎、平澤寿朗(以上7期生)、青木宏至、大須賀均、杉本亘孝(以上8期生)、加島延夫、南部達雄(以上9期生)、荒木幸生、馬場紘二(以上10期生)(アイウエオ順、敬称略)

司会 6期の方から自己紹介がてら、当時の学校の様子についてお話しいただけますか。

内藤 当時は今から30年以上前になりますが、一番すぐに頭に浮かぶのは、我々は慶應義塾農業高校という時代でしたから高山先生のもとで農業実習したことです。堆肥をまくとかね、ふつうの高校では経験できませんよね。二つ目は当時の宮崎澄夫校長先生のことなんですが、校長先生自身が授業を持って下さいます、一緒に本を読んだ経験がとても印象深かったです。

乙部 今、内藤さんが話してくれたんですが当時の学校の周りの様子を思い起こすと、ずいぶん変わりして今はとても賑やかになりましたね。当時は駅を降りると右側に食堂があるだけであとは何もありませんでした。正門を入るとすぐに本館があり、右の木立の中に相撲場が、そうそう収穫際の際に相撲をした記憶があります。し



乙部

農高から志木校へ!

かし一番の印象は実習ですね。私の場合は3年間お世話になった後麻布獣医科大学という獣医の大学に進みまして、そして、獣医になってそれをもとに農畜産関係の仕事をしております。

菅原 私の思い出は、農高出身のプライドといつも日吉の連中に負けるなという思いですね。我々のときまで大学進学では一般と同じ受験をしましたからね。また、自然や土に親しんできた男らしさは誇れます。厳しい実習でどんな苦勞があってもいつか終ると思ってやってきました。そのお蔭というか、ヨットの個人選手権で第一位を取れました。

出口 私は農高を出て日大の獣医畜産へ進みまして、今は動物病院をやっています。丁度農高に入学した頃にクラブ活動というのができまして、弓道部に入ったんですが、この事が一番の楽しい思い出です。



出口

平沢 そう、いろいろなクラブが始まりました。私の代では卓球部を作らさしてもらい、最初のキャプテンをしましたが、当時の卓球室といえばコンクリートの上に卓球台が一台、それも納屋みたいな所でやるわけですよ。窓がないんでドアを開けると風が入ってくるし、もう本当に卓球自身が暗いスポーツの上に、部屋も暗いから本当に暗かったですね。話はそれますが、私は兄弟が自分を含め3人とも